

# 学術的プレゼン ガイドブック

## アウトライン

- 「CBLの」プレゼンとは
- プレゼンの性質による大まかな違い
- 「学術的プレゼン」の三本柱
- 「学術的プレゼン」の基本構造

# 「CBLの」プレゼンとは

まず、「起業体験の」プレゼンを思い浮かべてください。実際に壇上で発表した人も聴衆として聞いていた人も記憶に強く残っていると思います。

しかし、今回取り組む「CBLの」プレゼンは性質が全く異なります。一言でいうと

「起業体験プレゼンは『商業的(commercial)』プレゼン」

「CBLのプレゼンは『学術的(academic)』プレゼン」

です。

たとえば、前者はテレビショッピングやスティーブ・ジョブスのプレゼン、後者はTEDで見られるようなプレゼンです。

大学で行うのはもちろん「学術的プレゼン」です。

しかも、「商業的プレゼン」はおもに代表者が行うのに対し、「学術的プレゼン」は大学を卒業するまでにほぼ全員が行います。

CBLを通して「学術的プレゼン」とはどのようなものか理解しましょう。

# プレゼンの性質による大まかな違い

学術的プレゼン (academic)	性質	商業的プレゼン (commercial)
研究成果の周知 「知識のバトン」をつなげる	目的	商品を買ってもらう 投資を募る
学生や学者 (専門的知識がある程度ある)	対象	消費者や投資元 (専門的知識はほぼ無い)
結果や仮説の独自性 誰もが納得できるプレゼン	重視すること	商品の有用性 特定の誰かの心に響くような プレゼン

「学術的プレゼン」の大きな特徴は  
**聴衆の全員が納得できるものである**ということ。

CBLでも、同じ問題で困っている人全員が応用できる解決策を提案する必要があります。

解決策が広く普及すればするほど、様々な人によってどんどん改良されていきます。

これこそが、「知識のバトン」をつなげるということであり、「学術的プレゼン」の大切な目的です。

## 「学術的プレゼン」の三本柱

信憑性

独自性

再現性

※「CBL」では身近な問題の解決策を提案するため  
これらの他に「実現可能性」も必要となります。

# 信憑性

発表の内容が正しい、または信用できるかどうか

- 調査や実験が適切な条件・方法で行われている
- その結果も現実的に考えて妥当である
- 2次情報の情報源は信用に足りるものである

# 独自性

行った調査・研究は自分オリジナルであるかどうか

- 調査・実験の方法や条件はこれまでに誰もやったことがないものである
- すでにある研究と同じ結果になってしまうのはOK  
ただし、新しい結果が得られる方がよい
- すでに行われた調査・実験の方法や条件を工夫したものから始めるとヒントが得やすい

# 再現性

結果は偶然のものではないかどうか

- 同じ条件・方法で調査・実験を行えばほぼ同じ結果が得られる
- 結果は統計的に得られたものである  
(調査・実験を複数回行って平均を考えるなど)

# 「学術的プレゼン」の基本構造

## 概要

- ・ 全体を手短にまとめたもの
- ・ スライド発表なら目次

## 導入

- ・ 研究テーマの背景やすでにある研究について
- ・ 自分が実施した調査・研究の簡潔な説明
- ・ ここで「独自性」についてアピール

## 準備

- ・ 実施した調査・研究のより詳細な説明
- ・ 知っておいてほしい予備知識の紹介
- ・ 少し専門的な話が必要な場合につける

## 結果

- ・ 実験結果の解説
- ・ 図表をつけるとわかりやすい

## まとめ

- ・ 結果からわかること。考察。
- ・ 今後の展開(future work)
- ・ 正式な論文では謝辞をつけます

## 参考

- ・ 参考文献

## 補足

- ・ 補足説明 (試行錯誤の流れなど)
- ・ 高度に専門的な話が必要な場合につける
- ・ 質疑応答の際にあると便利

スライド発表だけでなくポスター発表、レポートすべてに共通。このうち、特に大事なものは次の2つ。

## 導入 (introduction)

- **一番大事**。特に丁寧に。
- 問題点と解決に向けた道筋を論理的に説明する。  
「なぜ、そのような発想に至ったか」  
「なぜ、その調査・実験をする必要があるのか」  
ここが雑だと「信憑性」を得られない
- すでにある研究と比べて、  
自分の研究の目新しい点を明確に。  
「独自性」をアピールする

## まとめ (Summary / Conclusion)

- 自分たちの考えは正しかったのか、間違いだったのか。
- 調査・実験の結果から考えてわかることを書く。  
無理やり自分たちの望む結論にしてはいけない。
- 自分たちの仮説が間違っているとしても全く問題なし！  
「間違っている」というのはとても大事な事実
- 最後に**今後の展開**を必ず記し、「知識のバトン」を渡す